

研究主題「保育の質を高める研究保育を求めて」

—ビデオを活用した研究保育4年間の実践—

兵庫大学附属須磨幼稚園長 大村桂治郎

1. 主題設定の理由

以前から毎日が多忙な保育現場において、教職員の保育の質を高めるにはどのような方法があるのか探っていた。幼稚園連盟の主催する初任者研修や年次研修等に強制的に参加することを除いて、休みの日に自主的に研修に参加したり、書物で学んだりと個人に任される自主研修が主であった。

ほとんどの園がそうであるように本園も保育現場にいると同僚の保育を垣間見ることができても、じっくりと保育を見て討議し合って学ぶ機会がないのが実情だった。そこで、保育実践をビデオに撮って、放課後全員そろってその保育ビデオを基に研究討議を行うことはできないだろうかと計画し取り組み始めた。

保育の質の向上を図るには、良い保育とは何かということ共通認識し、具体的な関わりの中ではどんな語りかけが大切かを追求すると共に、どのような方法が良いのかを工夫し実践することである。他園の研究会に参加して力量を高める方法も一つだが、担任を持っている教職員にとって時間の確保が難しいのが現状である。また、研究会を持ったとしても子どもたちの保育にかかわっている時間帯が同じであるので、他の園の保育者に参加してもらうのも工夫しなければならない。担任を持っている教職員にとって時間の確保が大変難しいと言わざるを得ない。

そこで考えたのがビデオを活用した研究保育の実践である。ビデオの限界もありすべてを把握したものではないが、保育案と照らし合わせ、できるだけ全体が捉えられるようにビデオに撮り、子どもたちのいなくなった時間帯に視聴し、討議する方法である。全員参加しながら共通認識を持つ方法としては有効ではないかと取り組み始めて今年が4年目となる。

2. 研究仮説

幼稚園教諭が他の人の保育実践を見る機会のない多忙な日々の中で、ビデオではあるが同僚の保育を見ることによって、子どもの側に立ったり、保育者の立場になったりして日々の自身の保育の在り方を見つめる機会となるであろう。その結果、保育のレベルをあげる機会となるであろう。

子どもが生き生きとした活動をする良い保育を見ることによって、具体的なポイントを繰り返し見ることができるであろう。そして、自分の目指す保育について考える機会となるであろう。

また、保育者にとって、自分の話し方は園児に伝わっているのか、また、園児の反応を的確に把握できているのかをビデオを通して振り返ることができる。このように子どもの捉え方、子どもへの反応など振り返りの要素がたくさん考えられ、保育の質を向上させることができるだろう。

3. 実践の概要

(1) 研修を進めるにあたっての3つの目標。

- ①園児理解と保育内容の充実を目指して全教職員で取り組む
- ②保育力を高める
- ③人間力を高める

(2) ビデオを活用した研究保育の方法

全教職員が年間最低1回は提案保育を公開し、全員で討議をする。提案保育をする教諭は事前にその日の保育案を全員に配っておく。当日はそれぞれの教諭は自分も保育を行っているので、その時間帯に保育のない教職員が参観し、ビデオを撮っておく。年間計画の中で月に2回、4時以降の預かり(延長保育)を中止して研修時間として、提案保育のビデオを見ながら全教職員で研究会を持つ。

研究会を持つにあたり年度当初に1年間のテーマを設定した。1年目は「準備」とした。どんな取り組みにおいても、準備が大切と共通理解し、事前の打ち合わせや教材研究等を大切にした。2年目は「今、やる」を掲げ、仕事に順番を間違えないで、仕事を後回しにしないでタイムリーに行うことを大切にした。3年目は「笑顔」とした。どんな事があっても子どもたちに対して、保護者に対して笑顔で対応しようと話し合った。4年目の今年は「変革」である。今の自分にとどまらないで新たな目標を持って自分を高めていこうとテーマを設定した。その年に必要であると思ったことを挙げて全教職員で取り組んでいる。

(3) 具体的な取り組み

毎月2回の研修日の確保(水曜日・土曜日に実施)

研修の持ち方(全教職員参加)

- ① ビデオを視聴する(公開保育をビデオに撮ったもの)
- ② 保育者の反省
- ③ 研究討議
- ④ 園長の話

研究保育の時間を有意義なものにするには全員が参加できる状況を作り上げることが大切である。どんなねらいをもってこの設定保育を行ったのか保育案だけでは伝わらないことが多い。保育者自身がどうしても自分の言葉で伝えることが必要になる。保育を見ることによって感想を言いあったり、新たな気づきがあったりする。

(4) 公開保育実践について

公開保育実践の方法(手順)

保育者は年間保育計画に基づいて保育案を作成し、全教職員に配る。当日、園長は参加し、手のすいている教職員が保育実践をビデオに撮り、ポイントと思われるところを大切にしながらそれを30分以内にまとめる。その後、子どもがいなくなった時間帯を使って、全教職員で研究保育について語り合う。

- ① 年間の保育実践日の作成
- ② 年間の保育計画に基づいて公開保育実践の保育計画を事前に全教職員に配布
- ③ 時間の空いている職員は公開保育に参加する
- ④ 公開保育のビデオ撮りする職員を決めておく
- ⑤ 司会者・記録者を決めておき、研修をして明らかになったことや改善点を記録する
- ⑥ 公開保育は全教職員1回行う
- ⑦ 年度の終わりに研修記録として研究冊子にまとめる

(5) 実践していく中での4年目の先生たちの感想

園内研修は続けることに意義あり

苦手意識が強くなる公開保育だが、ビデオが映ると真剣にみている。良くも悪くも自分の言動にドッキリする場面があり、まんべんなくかかわったつもりでも反省が残るなど大変有意義な学びができていく様子がみられる。また、感想を言い合うことで様々な角度から保育を考えるきっかけとなり、保育の幅が広まってきていることが日々の記録からも読み取れる。討議の中で評価されたことが自信となり、教師も楽しみながら保育計画を考えられるようになってきたことは成果だと感じる。今では公開することに抵抗感が薄れ、素直にアドバイスを受け止め、気づいたことを実践に移す行動は継続の意義を感じる。

(50代女性)

保育の質の向上を目指して

4年目を迎えた園内研修。ビデオに撮られること、何を言われるのだろうかという先生たちの緊張は計り知れない。だからこそその美点凝視である。この視点により先輩、後輩関係なく一保育者として互いの良いところを認め合い、自分とは違う保育の視点に気づき、自分もあの保育をやってみようと後日自分なりに工夫し、実践してみるといった姿も見られるようになった。また、提案される保育の内容も自分の得意(できる)保育から、新しい分野への挑戦であったり、上手くいかない保育(苦手な分野)への挑戦であったりと保育の幅がひろがり、先生たちの向上心が感じられるようになった。(40代女性)

このスタイルでの園内研修を始めて4年目になる。普段自分の仕事をしているのでどうしても他のクラスの保育を見る機会が少ないのが現実であって、それをビデオで再現して見ることはとても新鮮に感じた。また、研修で年齢関係なく発言できる場があることは、若い世代の保育者にはいい経験になっているのではないかと思う。この研修を通して自分にはないものに気づいたり、同じ悩みを持って保育をしているのを知ったりと保育を通して世代の垣根を越えて気づきや気持ちを共有することもこの研修の魅力の一つだと感じる。(30代男性)

園内研修に参加して

平成27年から続く職員研修が今年で4年目になりました。初めての園内研修で私はトップバッターでビデオ撮りをしました。普段の保育と違い、ほかの先生に見られているという緊張感で思い通りにいかななくて子どもの言動にハラハラしたのを覚えています。今振り返れば反省もたくさんあり、「もっと落ち着いてできたのに……」という思いがあります。2年目3年目になってもやはりビデオをとる、ほかの先生に見られるという事には慣れず、反省もありました。4年目になった今、始めた時と比べると変化したところがあります。それは失敗してもいい、挑戦してみようという気持ちが出たことです。緊張はするけれどもそれでもやることで自分に自信が持てたり、新たな自分の保育を発見できたりするなと感じています。実際今年もビデオ撮りも終え、そこで初めてのことに挑戦しましたが、やってよかったと思っています。ビデオ撮りの園内研修は他の先生の保育を見て学ぶことがとても多いのでとても大切な研修だと今改めて感じ、やってきてよかったと感じています。(20代女性)

4. 結果と考察

ビデオを使った保育研究

1年目はビデオを撮られているということで、抵抗感を持つという意見が聞かれ、研究保育の中身もいわゆるよくある設定保育が中心であった。しかし、その中でも自分の話し方を振り返ることができ、子どもたちを見ているつもりでいたが、改めてビデオを通して見落としていることに気が付いたという感想を持っていた。

2年目は工夫がみられ、自分たちで考えた材料を持ち寄り教材にしたり、制作に活かしたり、自分で星の写真を撮り、子どもたちに見せて保育を行ったり教職員の力量を高める研修へと変化してきた。

3年目は少し枠を超えて、こんなことも私たち保育者は知っておく必要があるのではと少し意識を変えた取り組みをすることが多くなった。こんな時、他の先生はどう子どもたちと向き合っているかななどの話が出るようになった。

今年、4年目は先生たちの入れ替えもあったが、以前からの先生たちの助言もあり、いろいろな教材で取り組んでいる。本園の(タグライン)「わくわくさがし 学びを未来へ にぎわいある幼稚園」を意識しながら、子どもたちがわくわくしながら毎日を過ごし、どうしてかなぜかなと不思議を意識し、子どもたちの輝く目を大切にしながら日々過ごしていきたいと思っている。

○研修を通しての発見

自分の保育をビデオに撮られるということで初めは抵抗があったようだが、自分の話し方や目線など子どもに対してどんな態度で接しているかありのままの姿を見ることが出来るので、しっかりと振り返ることができている。自分では子どもたちの声に耳を傾けてしっかり聞いているつもりであったが、聞き落していたり、子どもの動きをとらえていなかったりしている自分への気づきがあった。

自分の話し方の癖や声の大きさなどなど普段気にかけていないことも振り返ることができたようだ。自分のことは自分ではわからないがこの機会をとらえて学ぶことができたという前向きな感想が持っている

○新たな挑戦

ビデオを使った研修を始めて1年目は設定保育のよくある造形遊びや運動遊びが中心であったが、2年目から変化がみられるようになった。ビデオを使用している研修会を続けていく中で日々の保育で今まで保育研修として取り上げていなかった場面の保育に挑戦するようになった。1日の生活の充実を図るということもあり、いろいろと工夫がみられるように変化してきた。

- ・子どもたちに初めて楽器を紹介するという場面を保育に取り入れる時どのように組み込むかを考えた。(音楽会に向けて楽器紹介をすることも含めて)
- ・バス通園をしている子どもたちのバスの添乗員としてどんな関わりをするのか。保育案形式をとりながら添乗し、ビデオで紹介していた。
- ・教諭の実技研修に行って学んだ子どもたちに絵を描かせる工夫を保育に取り入れた実践
- ・給食指導をどうしているか。私のクラスはこれのようにして嫌いなものを克服している
- ・朝の会のもち方をどうしているかとみんなに問いかけ、自分の日々の取り組みを紹介し実践する
- ・行事を意識した導入をどうするかなどの提案があり、経験の少ない先生にとっては有意義な研修となっている。
- ・本の読み聞かせをどうするか提案を含めての実践。
- ・子どもたちに不思議さを体験する理科の実験を取り入れたもの。
- ・簡単調理を取り入れた取り組み
- ・トイレの使い方や手洗い、けがの手当てなど保健に関する保育提案。

5. 今後の課題

ビデオを使った研究保育と研修の時間は大変有効であることは分かってきた。また、自分の実践のビデオを見ての振り返りをするこの意義は大きいことも確認できている。互いに切磋琢磨する研修としてビデオを使った研修は有効である。課題は何といても研修時間の確保である。全教職員が一堂に会して話し合いを持ち検討する時間を持つには時間の確保が課題である。1年間の計画をしっかりと立てて、時間を有効に使うことである。また、新たに子どもたちの保育で有効だと分かったことをまとめたり、ビデオを編集したりするなどして、いつでもどこでも閲覧して自己研鑽できるように活用していきたいと考えている。

我が国の教育における課題の1つに、教育の質の問題があげられている。幼児教育においても保育の質が問われている。働き方改革の推進から乳幼児を保育所や認定こども園に預ける家庭がますます増えてきている。今後、子どもの保育にかかわる仕事に従事するものは、保育士免許に合わせて幼稚園教諭免許を持つ必要があると言われ、認定こども園においても新しい保育指針に基づいての教育・保育を行うようになっていく。

本園は大学附属幼稚園として大学生の教育実習園としての役割を持ち、年間200名ほどの実習生を受け入れ、保育実践を通して子どもたちの成長発達を願い取り組んでいる。また、自ら学ぶ教職員集団を目指し、教職員の学びと学びの姿勢が必ず子どもたちに反映すると考える。今後とも子どもたちの幸せのために全教職員で自分磨きを続けていきたい。

資料1

ビデオを使った保育研究

1年目の実践例の一部

- 制作・・・折り紙をちぎってはって虹を作ろう (年中 6月)
- 剣道・・・蹲踞、すり足などを通じて剣道の動きを知ろう (年長 6月)
- 造形遊び・・・砂場で大きなヤマを作ろう (年少 7月)
- ゲーム・・・いす取りゲームをしよう (年少 9月)
- 体操・・・パラパルーンで遊ぼう (年長 10月)
- 絵画・・・絵本を読んで好きな場面を絵に描こう (年中 11月)
- 表現遊び・・・綿毛になって遊ぼう (年少 2月)

1年目はビデオを撮られているということで、抵抗感を持つという意見が聞かれ、研究保育の中身もいわゆるよくある設定保育が中心であった。しかし、その中でも自分の話し方を振り返ることができ、子どもたちを見ているつもりでいたが、改めてビデオを通して見落としていることに気が付いたという感想を持っていた。

2年目の実践例の一部

- 体操・・・バランス走りや障害物を乗り越えて遊ぼう (年中 6月)
- 造形・・・星の写真を見て自分たちで星空を作ろう (年少 7月)
- 楽器遊び・・・いろいろな楽器の音色を知り、演奏する (年長 9月)
- 造形・・・ハロウィンのかぼちゃバッグづくり (年少 10月)
- 造形・・・クリスマスツリーを作ろう (年中 12月)
- 防災・・・防災カルタを使って防災意識を高めよう (年中 1月)
- 表現遊び・・・役になりきって表現遊びをする (年長 2月)

2年目は工夫がみられ、自分たちで考えた材料を持ち寄り教材にしたり、制作に活かしたり、自分で星の写真を撮り、子どもたちに見せて保育を行ったり教職員の力量を高める研修へと変化してきた。

3年目の実践例の一部

- 保健・・・歯の王様について知ろう (年長 5月)
- 生活・・・バスの乗り降りを安全にしよう (学年を超えて 6月)
- 食育・・・牛乳のひみつ (牛乳について知り、デザートを作ろう) (年長 7月)
- 生活・・・楽しく昼食を食べて好き嫌いをなくそう (年中 7月)
- 生活・・・衣服の着脱をじぶんでできるように (年少 9月)
- 道徳・・・「ののさまの時間」(仏教園であるので) (年長 10月)
- 表現・・・生活発表会に向けて (年少 1月)

3年目は少し枠を超えて、こんなことも私たち保育者は知っておく必要があるのではと少し意識を変えた取り組みをすることが多くなった。こんな時、他の先生はどう子どもたちと向き合っているかななどの話が出るようになった。

今年、4年目の実践例の一部

- 体操・・・親子で体操を楽しもう (未就園児の親子 6月)
- 表現遊び・・・自分たちの育てたきゅうりを描こう (年長 7月)
- 食育・・・自分たちで育てたきゅうりを使った料理作り (年中 7月)
- 制作遊び・・・折り染めあそびをしよう (年長 7月)

- 表現遊び・・・音楽を聴いてイメージしたものを描こう (年中 9月)
- 保健・・・けがをしないために (年長 9月)
- 生活・・・日常の中での不思議や発見を楽しもう (年少 10月)
- 造形遊び・・・落ち葉を拾って、絵を描こう (年少 11月)

資料2

1年目から3年目までの研究冊子

